



Weは英語で「わたしたち」という意味。男女共同参画を「わたしたちみんなで考え、みんなで進めていきたい」と願って名付けました。

在宅介護を取り巻く課題

厚生労働省の「国民生活基礎調査」によると、在宅介護の場合、介護者の約7割が女性で、家庭における介護の主体は女性であることがうかがえます。この背景には、男性はフルタイムで仕事をしている人が多く、介護をする時間的な余裕がないこと、その反面、女性は家事や子育て経験が豊富な場合が多く、介護を任せやすいという現実的な事情があります。

また、このような事情のほかに、「介護は妻や嫁の役目」という性別による固定的な役割分担意識があるのではないかと考えられています。このため、女性が介護者の場合、力仕事による肉体的な負担が大きいことに加え、「介護をすることが当然」という考えが精神的な重圧となつていくことが問題点として挙げられています。

一方、男性が介護者となった場合は、不慣れな家事や介護による苦労や仕事との両立のほか、介護の悩みを一人で抱え込んでしまうことが問題となつていきます。これは、男性が弱みを他人に見せたくないという気持ちが強かったり、自分が抱えている悩みを他人に相

談することが少ないためではないかと言われています。

介護されている人は、介護者の感情に敏感です。だからこそ、介護者の心身の健康は、介護者と介護を必要とする人にとって、重要な意味を持っていると言えます。

家族が協力して

介護できるように

特別養護老人ホーム大谷荘のデイサービスセンターに勤務している介護士の菊池仁さんによると、最近、在宅での介護に男性のかわりが増えてきていると感じることが多くなってきたそうです。「仕



最近の在宅介護について語る菊池仁さん

事でデイサービス利用者の自宅まで送迎する際に、男性が応対する機会が増え、話の内容から日常的に介護に携わっていることが伝わってきます。施設介護と同様に、在宅介護でもベッドへの移動や入浴介助など男性の力が必要とされる場面はたくさんあると思います。家族みんなで協力し合い負担を分散させることが大切ですね」と菊池さん。また、特にも一人で介護をしている方は、疲労の蓄積も多いことから、介護者自身のリフレッシュのために、介護サービスを上手に利用してほしいと話してくださいました。

介護のすべてを一人でこなすのはとても大変なことです。そして、誰もが介護する立場になる可能性を持つていきます。介護者の負担感を軽減し、無理せず在宅介護を継続していくためには、家族みんなが介護に関心を持ち、「介護は家族が協力して行うもの」という意識で、介護に積極的にかかわることが大切です。このことは、「一人ひとりが責任を分かち合いながら協力する社会」男女共同参画社会に通じるものであり、これからの介護に求められている姿と言えるのではないのでしょうか。

まちの中のいい話

市内の子育てサークルで構成される「花巻地域子育てサークル情報連絡会」。その会長である伊東千佳子さんと事務局の青木明希さんにお話を聞きました。



連絡会の活動について語る伊東千佳子さん(写真右)と青木明希さん(写真左)

お父さんもいっしょに参加できるイベントを

連絡会を立ち上げたきっかけを教えてください。

伊東さん 市内にはたくさんの子育てサークルがあつて、それぞれ独自に活動しているのですが、大きなイベントを企画しようと思つても、単独では限界がありました。そんな折、市のこどもセンターから、岩手県長寿社

会振興財団の「いわて子ども希望基金」というイベント助成の制度があるという情報をいただきました。そこで、各サークルに交流や情報交換、さらにはイベントの開催を目的とした連絡会の設立について声かけを行いました。昨年6月に連絡会を立ち上げました。

イベントの内容や、そのねらいなどを教えてください。

青木さん それぞれのサークルの会員はお母さんたちなので、各サークルとしての活動は、母親と子ども中心のものになります。そこで、連絡会が主催するイベントは、お父さんたちが一緒に参加できることを念頭に企画しています。例えば、開催日を土曜日にしたり、内容も家族ぐるみで楽しめるようにと考えました。それが、運動会や食育フェスタです。

運動会では、子ども以上に楽しんでお父さんも見られました。また、食育フェスタでは、親子での工作や食育クイズ、絵本の読み聞かせのほか、一緒に

お弁当を詰めて、一緒に食べるということも行いました。子どもたちの楽しそうな笑顔が印象的でした。

伊東さん 夫の転勤で花巻に住むことになった会員もいて、慣れない土地での育児に苦労しているようです。そういう時、一番頼りになるのは、やっぱり「お父さん」です。積極的に育児に参加するお父さんもいらっしゃると思いますが、中には忙しくてできないという方もいるようです。

お父さんが子どもと接する時間を持つことができる、このようなイベントを通して、お父さんが育児参加するきっかけづくりができればと思っています。



食育フェスタには親子32組が参加。そのうち、8組がお父さんも一緒に参加しました

ワークショップで男女共同参画

昨年11月30日に文化会館を会場に、東日本大震災をテーマとする「地域の助け合いをみんなで考えてみよう!」と題したワークショップを開催しました。

自主防災組織や避難所の運営における「地域住民の声」を適切に把握するためには、男女双方のリーダーを選出することが必要であることなど、災害時の男女共同参画の重要性について理解を深めました。



講師の助言を受けながら、震災で困ったことと、その解決策について、熱心な話し合いが行われました

編集サポーター(敬称略)

小原康子、菅原重子、高橋奏恵、藤根悦子、藤本眞津子、吉田幹子

問い合わせ

本庁市民協働参画課
(024)21111 内線457